

平成30(2018)年度伊丹市立松崎中学校 自己評価

1 校訓

盡己

2 学校教育目標

すべてのことに全力で取り組む生徒の育成

3 本年度の経営方針

校訓「盡己」の具現化をめざして、授業、行事、部活動を教育活動の3本柱とし、「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒を育成する

4 自己評価結果

目標	アンケート番号			評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の評価	目標達成度	課題・改善方策
	生徒	保護者	教職員						
「一生懸命勉強する」生徒の育成	④～⑥	②～④	④～⑥	①学力が身につく授業実践	教員の授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会を定例化し、より良い授業を目指して教科内で月に2回協議した。 ・昨年度改訂した新指導案を改良して活用した。 ・全教員が公開授業を実施し、担当教科だけでなく、他教科の授業も見学した。 成果として、生徒アンケートにおいて、「授業はたのしくわかりやすい」という問いに肯定的な回答をした生徒が、29年度は73.4%であったのに対し、30年度は76.6%と、約3ポイント向上している。 「先生はいろいろ工夫して教えてくれる」という問いに肯定的な回答をした生徒は29年度は84.2%であったのに対し、30年度は85.7%と、1.5ポイント向上している。「授業内容でわかりにくいことについて、先生に質問しやすい」という問いに肯定的な回答をした生徒が、29年度は64.0%であったのに対し、30年度は69.7%と、5ポイント以上向上した。	4	3	【課題】 ・今年度の生徒アンケートにおいて、最も否定的な解答が多かったのが「授業内容でわかりにくいことについて、先生に質問しやすい」という問であった。昨年度よりは5ポイント向上しているが、今後も継続して、生徒が質問しやすい環境を整えていく必要がある。 ・教職員の自己評価においては、「私は生徒指導が機能する授業を実践している」という問に対して、「とてもそう思う」と回答した教師が14.8%と非常に低い。6年間『生徒指導が機能する授業実践』を研究テーマとし、全員の教職員がかなりの労力をかけて指導案を作成して公開授業を行ったにも関わらず、低い自己評価ということは、研究テーマに沿った授業の難しさが考えられる。 ・来年度に向けて、さらに教職員にイメージしやすい研究テーマを考えていくことが課題である。 【改善方策】 ・学習習慣を定着させる。 ・小テストの実施。 ・放課後学習の推進。 ・小中連携を強化し、情報共有を密にする。9年間を見据えた教育を行う。 ・生徒が楽しいと思える授業作り。 ・自分やグループで調べ、まとめたり伝えたりする取り組みを授業に入れる。
					計画性を持った研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内の幼稚園、小学校教員との合同研修会を実施し、校種間の指導の継続性を図った。 ・SCやSSWによる研修を行い、さまざまな特性を持った生徒を理解して指導できるよう共通理解を図った。 ・QUを年に2回実施(6月・11月)し、6月の結果をもとに、QUを生かした生徒指導、学級経営について、指導主事を招いて研修を行った。 ・31年度の道徳の教科化に向けて、おもに評価の方法について研修を行った。 ・教科部会(月に2回)を実施し、指導案の検討や授業計画について教科内で検討した。 ・研究授業に向けて、指導案の事前検討会と、プレ授業を実施した。 			
					生徒指導が機能する授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ・「ペア・グループ学習」を取り入れ、その中で生徒指導の三機能(自己存在感、共感的人間関係、自己決定)に視点を置いた教師独自の手立て(工夫)を明記した指導案を作成し、全ての教師が公開授業を行った。 ・新しい指導案の形式を作成し、本時の目標を明確化した。その内容を学ぶことの必要感を示し、ゆさぶりの場を設定して生徒の認知的不協和を起こさせる取り組みを行った。 ・全クラス(教室)に、ミニホワイトボードとペンのセット(9セット)を設置し、グループ学習を活発に行えるようにした。 ・ほぼ全教室にプロジェクターと書画カメラを設置し、ICT環境を整備した。 ・本時の目標と本時のまとめのパネルを各教室に設置し、活用することができた。 			

⑦	⑤	②読書活動	図書室の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・背の高い本棚の最上段に手が届かない生徒がいること、地震発生時の安全性を高めるために、5段棚の最上段の本をすべて下の段に並べた。 ・大阪北部地震で、数十冊の本が落下したが、本棚は転倒防止策を施していたので、倒れることはなかった。 ・コンセントが少ないので、延長コードを購入し、掃除機などを用いての作業効率が向上した。 	3	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は朝の読書や、図書室の利用などに力を入れている」と肯定的に回答した生徒は79.5%だった。「学校は読書に親しむ機会を設けている」と肯定的に回答した保護者は81.4%だった。昨年の数値と比較すると、生徒は-2.4ポイント、保護者+2.9ポイントだった。生徒のポイントが下がった理由として、読書に対する積極性の高い生徒が増えたことで、読書活動の質の向上を求める生徒が増えたと考えられる。保護者のポイントが向上した理由は、図書館教育の取り組みが徐々に浸透してきたからと考えられる。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館まつりなど楽しい行事だけではなく、本の帯づくりやタイトルコンテストなど、思考力・判断力・表現力を駆使するような活動を取り入れ、市立図書館ことば蔵に出品するなど、生徒の活躍の場を広げていく。 <p>学習タイム</p> <p>【課題】・6校時・掃除・学習タイムの時はあわただしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年だけの学習タイムは途切れ途切れになってしまうことが多い。 <p>【改善方策】・6校時・学習タイム・掃除の時にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ断続的にならないように、会議等考える。 <p>進路学習</p> <p>【課題】進路学習ノートを計画的に活用できなかった。</p> <p>【改善方法】1学期の学活で進路学習ノートの活用を進める。</p>
			読書量の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と今年度の、4月から12月までの貸出冊数を比較すると、昨年度4933冊で今年度は5887冊。+954冊で、読書量は向上している傾向にある。 ・今年度も図書館まつりを7月と12月の2回実施した。図書委員の生徒が積極的に活動し、学校図書館の利用促進につながっている。 ・期間限定で早朝開館を実施し、学校図書館の利用機会を増やした。 		
	⑬⑭	⑩⑪	①	③進路指導	<p>進路指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期の早い時期に、できるだけたくさんの情報提供をこころがけ、進路に対する意識付けを早期に充実させると同時に、夏休み後半の部活引退後にOHSに参加するきっかけ作りを行った。 ・学校案内およびOHS案内の阪神間私学一覧等を全員配布。OHSの案内は、すべての学校について全員配布を心がけ、少人数のニースにも行き届く体制を心がけた。 ・出願手続きについて早めの準備や指導を心がけた。 <p>生徒・保護者への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に生徒アンケートに基づいて私立高校13校に来校していただいて、生徒が興味関心に基づいて選んだ4校を2時間で回る形の説明会を開催した。 ・7月に公立高校5校来校していただいて説明会を開催し、教室をクラス単位で回る形で説明会を開催した。進路通信を発行して、情報提供に努めた。 ・1学期に兵庫の私学・大阪の私学・通信制高校・専修学校の無料配布冊子を取り寄せて全員配布。ポスター、経路確認のための学校所在地図、受験校別先輩直筆の受験当日の記録、学校別・面接会場の詳細と面接の過去問等を掲示した。 ・学校厚生会OHS保険の周知と、説明会開催、集金送金業務。奨学金の案内と手続き、進学先の高等学校への決定通知送付等、各種手続きの代行を行った。 	
	④		④学習タイム	<p>系統的・継続した実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期2回、テスト前6日間実施した。生徒はテストに向けて意欲的に学習に取り組めた。 ・3年生のみ授業時数確保のため11月下旬より断続的に学習タイム実施した。 	3	

目標	アンケート番号			評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の評価	目標達成度	課題・改善方策
	生徒	保護者	教職員						
「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成				①部活動	部活動の活性化 部活動をとおしての仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> 部活動数19は市内最多であり、活発に活動している。 総合体育大会では阪神大会出場9、県大会出場4と好成績を残した。 ノ一部活デー(毎週月曜日と月2回(土・日))を設定して、適度な休養を設け、けがの防止や効率的な体力の向上に努めた。 校長室前に表彰状の写真を掲示したり、生徒下足場の掲示板に部活動ごとの結果を掲示して広報した。 入部率73.9%で、日常の活動だけでなく、夏祭り、餅つきなどの地域行事に参加するなど、地域の小学生や大人との交流ができた。 	4	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入部率が昨年度71%から、本年度73.9%に上昇したが、他校に比べると低い状態にある。 来年度よりノ一部活デーの形態が変わるため、その意義を生徒・保護者に伝える必要がある。 自己存在感を育てる場面設定が十分にできていない。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の意義を伝え、入部後は継続する事により得る力や達成感、充実感を感じられるように指導する。 ノ一部活デーに、家庭での手伝いや家庭学習に取り組む啓発を家庭と協力して行う。 部活動で身につけた体力、忍耐力、自身を授業や行事につなぐことができるよう、技術指導だけでなく、教師の意図的、系統的な人間形成に向けた指導を行う。 	
	③	③⑯	③	②学校行事	生徒の自己存在感、充実感、達成感の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「学校行事は楽しい。」と回答した生徒は91%となっており、多くの生徒が前向きに取り組むことができた。 「子どもは学校行事に積極的に参加している。」と回答した保護者は94%である。前年度とほぼ同じである。しかし、「学校行事に参加し、子どもの様子を見ている。」と回答した保護者は86%であり、前年度と比べ、4%減少している。このことから、保護者が学校行事の現状を見られていないことがわかる。また、今年度は体育大会が順延になったこともあり、保護者の参加できなかったことも原因の一つとしてあげられる。 「学校行事が生徒にとって価値ある体験となるよう工夫・改善を行っている。」と回答した教師は96%となっており、生徒の自己存在感、充実感、達成感を育成するための手立てを考えることができたと考えられる。 	4	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒と保護者と学校を結ぶ行事の編成。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事後の事後学習を掲示や発表を行うことで、保護者に「視える」化する。 保護者も巻き込むような新しい行事を作る。(一緒に見る、考えるなど) 行事(例:体育大会)の日程変更などの可能性を踏まえて、保護者へ連絡をする。 	
	⑩⑪	⑦⑧	⑦⑧	③生徒指導	生徒指導体制の整備 いじめ、問題行動への迅速な対応	<ul style="list-style-type: none"> 教員の空き時間における校内巡視の見直しを行った。 スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携して生徒と関わりを持つことができた。 ふれあい相談員を活用し、校内巡視、家庭訪問、別室対応など多岐にわたって連携することができた。 週1回の生徒指導委員会での内容を、各学年の職員で情報共有をし、共通理解のもと指導、対応することができた。 生徒情報フォルダを作成し、どの職員も個々の生徒への指導内容を容易に把握することができた。 担任や部活動顧問だけが抱え込むのではなく、学年生徒指導、学年主任、生徒指導主任、管理職が連携し、組織的な対応を行うことができた。 学期に1回いじめアンケート調査、教育相談を行い、生徒の実態把握に努めることができた。 いじめ対策委員会を定期的に開催し、学年の現状を情報共有したり、今後の取組について協議することができた。 いじめ防止強化週間(年2回実施)では、生徒会本部と連携して挨拶運動(グリーティングカップ)や、学級での交友行動(絆のあかりプロジェクト)を通じて生徒の仲間意識を向上させることができた。 携帯、スマートフォンによるいじめ、問題行動防止に向けた講演会を2回実施した。 週に1回、生徒の心境を知る(ニコちゃんマーク)ことで、トラブルの未然防止や心の変化に気がつくことができた。 いじめや問題行動が発生した際は、職員間で連携して被害生徒、加害生徒への丁寧な聞きとりと心のケアを行い、再発防止に努めた。 	3	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期欠席者(20日以上欠席)の数が43人(H30,12月末現在) 「学校へ行くのが楽しい」と回答した生徒の割合が80%(5人に1人は楽しくないと思っている)であった。 「先生は一貫した適切な指導を行っている」と回答した保護者の割合が85.7%であった。14.3%の保護者が否定的な考えを持っている。 「子どもの生活の様子等をよく把握している」と回答した保護者の割合が87.3%であった。12.7%の保護者が否定的な考えを持っている。 「学校は、問題行動に対する指導体制が整備されている」と回答した教師が85.2%であった。昨年度は66%だったので数値的には大きく改善されたが、14.8%の教師が否定的な考えを持っている。 いじめ、問題行動、SNSによるトラブルが依然として発生している。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期欠席者については学年職員を中心に本人、保護者との面談を通し別室登校、時差登校、関係機関との連携による心のケアを促し、登校につなげる。 生徒が学校に前向きな気持ちになれるよう、複数の職員で多方面から個々の生徒に関わるよう心がける。また、傾聴的な姿勢で生徒と接し、生徒との距離を縮めていく。 学年会や職員会議の際、生徒指導委員会で協議した内容(他学年の生徒の様子、他校の生徒状況等)を情報共有する。また、研修会等を実施し、生徒指導体制の確認や改善を全職員で行う。 職員が協力し合い、授業や学校行事を充実させ、生徒1人1人の集団意識を自覚し、心を耕せるよう努める。 市教委、子ども家庭課、愛護センター等、関係機関との連携を密にしていく。 	

目標	アンケート番号			評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の評価	目標達成度	課題・改善方策
	生徒	保護者	教職員						
開かれた・信頼される学校づくり	①	①	①②	①学校運営協議会	学校経営への意見反映	<ul style="list-style-type: none"> ・地区会長、地域コーディネーター、主幹教諭、PTA副会長をメンバーに追加し(7名→11名)広く意見を伺った。 ・年4回定期的に協議や生徒参観を実施した。 ・年度当初、松中ブロックの小学校との合同研修を実施しネットワークを広げた。 ・学校中間評価結果をもとに教職員との夏季合同研修会にてSWOT分析を実施した。 ・各種学校データを公開し学校の現状を把握いただいた。 ・次年度の学校経営方針について協議し承認を得た。 	3	3	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会について、まだ保護者の周知が低い。 ・市教委の予算活用の具体策について検討が必要である。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、HP、PTA各種会議で説明広報する。 ・会の運営についてCSディレクターの運用を検討し、計画性を持って予算を活用する。
				②学校評価	PDCAサイクルの実行	<ul style="list-style-type: none"> ・7月に6項目に絞って生徒対象に中間学校評価を実施した。 ・中間結果を資料にして夏季研修会で学校運営委員と教職員が協働でSWOT分析を実施した。 ・学校評価資料としてのアンケートを、昨年度と同様に実施した。 ・校長による分析を、職員会議等で共通理解し、各分掌において成果と課題を検討した。また、各学年ごとの経年比較を行い、現状の把握や学習指導及び生徒指導の改善に活用している。 	3		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は、カリキュラムマネジメントの観点から、各分掌で検討した内容を共通理解し、具体的な学習指導や生徒指導として実施していく必要がある。 <p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分掌で検討したことが次の年度に引き継がれるようにする。 ・学校評価結果を把握し、年間計画等を組んでいく必要がある。 ・教職員が客観的な資料に基づいて改善計画を立て、それに沿って各主任や主幹教諭等が管理職の指導助言を受けて調整し、組織的に教育活動を実施する必要がある。
		⑮⑲	⑳～㉓	③保護者・地域との連携	地域への公開、参観授業の実施 生徒、教師の地域行事への参加 学校からの情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観及び土曜オープンスクールの実施(授業参観年1回、土曜オープンスクール年2回) ・「道徳」公開授業の実施 ・松中地域ボランティアサポーター制度による、部活動生を中心とした地域行事への参加。 (全国学力・学習状況調査「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。」で『参加したことがある』と答えた生徒が59.4%で、伊丹市平均を大きく上回っている。 ※伊丹市43.4% 全国51.8%) ・教員の地域活動への参加の向上(本年度78%、昨年度76%) ・学校だより、学年・学級通信、保健だより等の定期的な発行、及び学校HPへの掲載とこまめな更新。 ・学校だより、学年通信の掲示板への掲示。 ・学校運営協議会における、学校教育活動に関する情報提供と共通理解。 ・校区内3小学校地区会への出席と、学校教育活動に関する情報提供。 	3		<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の学校行事への参加が前年度より低下した。(本年度86.3%、昨年度90%) <p>【改善方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAとの連携を図り、案内や周知の工夫を図る。 ・学校HPの活用を推進する。 ・講演会、出前授業等を公開する。

※ 項目の評定については、生徒、保護者、教師のアンケート結果等から判断し評価する
(4:達成されている 3:ほぼ達成されている 2:あまり達成されていない 1:達成されていない)

4 自己評価における特記事項

- ・生徒アンケート結果(全学年)の経年比較(H28→H29→H30)
「学校へ行くのが楽しい」 87%→84%→80%、
「学校行事は楽しい」 91%→92%→91%、
「授業はわかりやすく楽しい」73%→73%→77%、
「先生は生徒の悩みや不安に対して相談にのってくれる」78%→79%→86%
- ・アンケートにおける学年別の主な項目推移(H29→H30)
「授業はわかりやすく楽しい」 第3学年70%→76%、第2学年74%→69%、第1学年87%(H30.7)→83%
「生徒の悩みや不安の相談に乗ってくれる」 第3学年72%→89%、第2学年69%→77%、第1学年82%(H30.7)→82%
「自分には良いところがある」 第3学年66%→71%、第2学年61%→68%、第1学年69%(H30.7)→73%
- ・「学校へ行くのが楽しい」は低下傾向が見られる一方、「学校行事は楽しい」が90%台で高止まりしている。
- ・「授業がわかりやすく楽しい」が4ポイント上昇し、「先生は生徒の悩みや不安に対して相談にのってくれる」は7ポイント上昇した。
- ・全学年において自己有用感が上昇しており、個々の生徒へのカウンセリングマインドをもとにした丁寧な対応や、授業改善の工夫が成果となってみられ始めた。
- ・一斉指導型の授業から脱却し、わかりやすく楽しい授業展開をすることで、行事だけでなく「学習が楽しいから学校が楽しい」と感じさせるような授業改善のさらなる工夫が必要である。

学校関係者の意見

<p style="text-align: center;">「一生懸命勉強する」生徒の育成</p>	<p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に向けた取組は教科部会のみならず色々工夫されている。時間的にも大変だが継続は力なり。前向きに全教職員で。 ・授業改善への取組が生徒アンケート結果に肯定的評価として表れている。 ・学校の目標がわかりやすくて良い。 ・土曜学習教室に部活動を休む、あるいは早退して参加するという希望が叶えられた生徒が2人いた。 ・系統付けられた目標で問題はないと思う。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の意識として生徒指導が機能する授業実践の満足度が低いのは理解できる。満足することなく、工夫する姿勢を感じるが、細かな具体目標を示すことなども若い教師には良いかもしれない。 ・学力向上の評価指標を学校独自で設定する必要がある。アンケート結果だけでは「学力」のとらえとして不十分である。学力調査結果の数値評価も入れた自己評価とすべきである。今回の評価では教えっぱなしの自己満足評価となっている。 ・全教師が授業公開することで教師の真剣さやレバレッジアップは生徒のやる気として表れていくと思うので継続してほしい。 ・幼、小、中の教師の連携は継続してほしい。 ・分からない(生徒にとって消化不良である)ことを「教えてください」と言い出さない生徒がまだまだいるのではないかと。土曜学習教室にやってきて、数学の課題に取り組んでいても間違えた問題は解答を書き写しておしまい。スルーしていく生徒が多いように感じる。難問を解きこなすまでには至らなくても基本の基は消化不良のまま終わらせない努力が必要な気がする。 ・こちらが想定している期待に届かない理由が何かあるはず。根気強く問題解決に取り組む。 ・先生は色々工夫して教えてくれると感じている生徒は高率であるが、授業は楽しくわかりやすいという回答率が下がっている。 	<p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導が必要な生徒(授業について行けない生徒)、不登校傾向の生徒、別室登校の生徒等、一斉授業では見えない生徒への対応を日常化する。 ・土曜学習教室の参加者を募集する際にその教室の存在意義を周知する。(分からない事を個別に教えてもらえること。数学の計算問題を少しでも短時間でこなせるように全員でタイムトライやるに挑戦していること。普段の勉強の仕方など子どもサポーターである大学生に教えてもらえること) ・参加申し込みをした生徒について学校側と校区コーディネーターとでどのような生徒でどのような学習の仕方がその子にとってベストなのか情報交換が必要であると思う。 ・「興味を持たせる」「理解させる」が基本！よりその姿勢が大切だと思います。 ・授業で学習した事を家庭学習への課題として定着させる。
<p style="text-align: center;">「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成</p>	<p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事にも積極的に取組み、良い結果が出ている。学校生活に潤いを感じ、自己存在感を覚える生徒が多いので頑張ってもらいたい。 ・SC,SSWが配置され、教師と連携した生徒指導体制が整っている。 ・体育大会ではクラス学年の団結が素晴らしく、一生懸命取り組む姿に感動した。 ・合唱コンクールではどのクラスも目標に向かって頑張っている気持ちが伝わってきた。聴く態度も良かった。 ・学校内は清潔で気持ちが良い。トイレや手洗い場は清潔に使われており、生徒の落ち着きを感じる。 ・教室内は整理整頓されしっかり生活している事がうかがえる。 ・部活動や学校行事に真剣に取り組んでいると思う ・得手不得手はあれど生徒がいろんな体験をさせてもらっている事は、後の人生で役に立ってくる事と思う。 ・各取組についての目標は明確で良いと思う。 ・行事での一体感、達成感がよく感じ取れる。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しっかり歩けるしっかり歌える松中生。このような具体的目標を生徒指導の色々な場面で提示する工夫を。 ・表面的には行事に積極的に参加している生徒が多いと思われるが、果たして一人一人の生徒に自己存在感が育成できているのか、検証する必要がある。それがないと登校していない、教室に入りにくい生徒等、全体からは見えない生徒にどのように対応するかが、個々の教師の力量に頼ることになり、学級によっては問題行動や不登校等の生徒指導上の課題が多い状況が生じる恐れがある。 ・不登校の生徒の特性もあるが学校へ来やすい居場所をつくってあげてほしい。 ・部活動を頑張ることはとても喜ばしい事だと思うが、疲れすぎて・・・か、自律できないためか、ある程度長い期間にやり逃げまじょうという課題を、こつこつとこなす事ができない生徒がいるのではないのでしょうか。提出させる事だけに目が行き理解しているかどうか見過ごされてしまっていることもあるように感じる。 ・いじめや不登校生徒の増加はやはり学校だけの努力では難しいと思う。最近の関係機関の信頼性も揺らいでいる。情報収集こそが大切なんだと思う。 ・行事終了後の学習面へのやる気、頑張る気持ちを継続させる方法は何か？学校(先生)だけのフォローでは状況改善はしない。家庭との連携、保護者ができる役割を考える。 ・生徒会との座談会でメンバーみんなしっかりと考えた考えを持っていた。直接先生方に言えない発言もあって、もう少し先生と話を良くする事を助言した。生徒会としての組織を重視し生徒自身が主体的な発言行動をしてほしい。 	<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業、行事、部活動が連結した指導体制、言い換えれば、生徒を多面的に見ることができる生徒指導体制を確立する。 ・長い期間でこれだけ仕上げて提出と言うよりは、モチベーションが長く続くように早めの期限を切った提出を求めてはどうでしょうか。 ・PTA活動も難しくなっていますが、全てが否定的ではありません。やはり学校としても保護者との連携について、PTAとともにもう工夫があるのかもしれない。 ・規則正しい生活の重要性の指導を生徒だけでなく保護者にも伝え、成長期の子どもにどのような影響を与えるのか啓発する(興味の湧くPRを実施)。
<p style="text-align: center;">開かれた・信頼される学校づくり</p>	<p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①②③ともに外部にかなりオープンに取り組んでいる。特に評価についても生徒にも行っているのが良い。 ・地域行事へ参加する生徒が増え、地域の一員としての自覚が芽生えてきている。 ・学校だよりは見やすくわかりやすい。楽しみである。 ・地区社協の行事に大勢の生徒が参加してくれ地域の方々と関わっている姿は嬉しい。先生方の参加にも感謝します。 ・ボランティアカードを作ったことで意識が高まったと思う。 ・松崎中学校地域ボランティアサポーター制度は地域にとってはとても喜ばしい事かと思う。 ・学校の方針としては常に開かれた学校となっている。地域ボランティアサポーター制度は良いと思う。 ・学校だよりは丁寧でわかりやすい。 	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会のメンバーが地域行事等にももう少し参加して、生の姿を見る機会を多くしたい。 ・学校運営協議会と地域学校協働本部との連携が必要である。 ・地域が学校に要望する事は多くても中学校が地域に要望を出せる事はほぼないのでと推察いたします。残念ながら小学校区によっては中学校側のニーズに応えられる地域に育っていないと言わざるを得ないと感じる。 ・実際には地域交流も深まっているのだが、学校、教師、生徒の取組には評価できる。 ・保護者アンケートでも学校からの情報がうまく伝わっていないように見受けられる。 	<p>【改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校を核にした「まちづくり」に向けた、地域との協働授業を取り入れる。そのために、学校運営協議会と各小学校区のまちづくり協議会(自治会ブロック会)との連携協力体制にあり方について今後検討する必要がある。 ・地域住民を学校現場の環境整備などに巻き込み、生徒、保護者、地域住民が一緒になって一つの事に取り組む事のできる仕掛け(コーディネーター)が必要かと思う。 ・正直、学校運営協議会についても議論等は活発にされている。一般保護者(PTA役員でない、興味のある)にも参加させてみていいのかもしれない。活動の内容を知れば認知も上がるのでは。 ・地域ボランティアについてもたとえば生徒会と地域交流(企画から参加)など増やしてみても面白いのでは。 ・保護者の学校行事の参加率をアップするために、再度現在の内容を検討する事も必要である。